

果樹

ウメの栽培

加工で利用出来るウメを栽培してみましよう。栽培は比較的容易です。加工用途毎の品種を紹介し、栽培の基本を説明します。
ウメはバラ科サクラ属の高木性果樹で、結果年齢が比較的早いです。

〔適地の選定〕

1. 気象条件
年平均気温7℃以上の所で栽培出来ます。ただし、開花が早いので低温に弱く、開花期から幼果期に凍霜害を受けやすい所が良いでしょう。
結実安定のために、晩霜の少ない所、風当たりが少なく日当たりの良い訪花昆虫が活動しやすい所を選びましよう。

2. 土壌条件

適応性は広いですが、有効土層の深い、排水良好な土壌が適します。また、干害も受けやすいので保水性の良い土壌が望ましいです。土壌酸度はpH5.5～6.8程度が良いでしょう。

〔品種の選定〕

○梅干、青漬用の品種―甲州小梅
○梅酒用の品種―玉英、鶯宿
○梅干、梅酒用の品種―南高
※甲州小梅は小ウメ、その他は大ウメ品種は用途（青ウメ、漬けウメ）によって選定しましょう。
自家不結実性が強いので、花粉が多く、栽培品種と交配親和性があり、開花期がほぼ一致する品種（小ウメ品種等）を2～3割混植します。ただし、小ウメは収穫労力を多く要します。

〔植栽〕

1. 圃場の準備
○定植2～3か月前に植え付け位置の直径1.8～2.0mの範囲を高さ20～30cmに盛り土をします。土盛り

部分に良く腐熟した窒素含量の少ない堆肥を1樹当たり20kg、苦土石灰、熔りん各1kgを施用し土と混ぜます。

2. 苗木の準備

○苗木は、細根が多く、充実の良い苗木を選びましよう。植え付けまでに期間がある場合は、根が乾燥しないように仮植えしておきましよう。

3. 植え付け時期

○11月上旬～12月上旬及び2月下旬～3月上旬です。発芽が早いので、秋植えが望ましいでしょう。

4. 栽植密度

○株間4m、畝間4mの正方形植え、間伐後株間、畝間各8mとしましよう。

5. 植え付け方法

○苗木は浅植えとしましよう。
○傷んだ根は健全部まで切り返し、根を四方に広げ、細かい土で覆土をしましよう。

○定植後は、十分に灌水し土を落ち着かせ、株元に敷わらをして乾燥を防ぎましよう。

○苗木は接ぎ木部から40～50cmの充実の良い部分まで切り返しましよう。

○定植後は、発芽後新梢が伸長するまで施肥は行わないようしましよう。(図1)

〔整枝剪定〕

1. 整枝

○開心自然形の2本主枝または3本主枝とし、主枝、亜主枝を強く作りましよう。

○徒長枝が発生しやすく、放置すると樹形が乱れるので、夏季管理を徹底しましよう。(図2)

2. 剪定

(1)時期
○ウメの剪定は、開花が早いので12月に行いましよう。

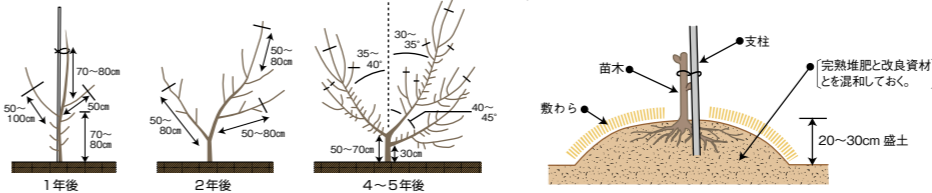


図1 苗木の植付け法

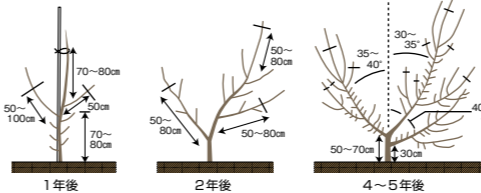


図2 整枝法

2. 播種時期

9月上旬から翌年の4月まで播種できますが、高温時や低温時は発芽が悪くなりますので注意してください。

3. 育苗

128穴、又は200穴のセルトレイを使用し育苗すると、育苗が楽になります。育苗中の温度は15～20℃で管理するのが望ましいですが、高温時では徒長に注意してください。育苗期間は3日前後で本葉4枚程度の苗にしましよう。

4. 畝作り及び定植

定植7日前までに10㎡当たり堆肥20kg、石灰質肥料15kg(セルカ等)、有機質入り化成肥料15kg(やさいの肥料)を施用し、1.2mの畝を立てマルチをしましよう。
定植は午前中に条間30cm、株間25cmで植え、十分灌水しましよう。

5. 灌水・追肥

雨が降らず、土壌が乾燥するときは6～7日に1回、十分灌水しましよう。生育期間が短いので追肥は必要としませんが、場合によっては生育状況をみながら液肥や化成肥料で追肥を行いましよう。

6. トンネル被覆及び温度管理

平均気温が10℃以下になれば、ビニール又は不織布で保温し、日中20℃前後を目安に管理し、25℃以上にならないように換気しましよう。

7. 収穫

リーフレタスは株の長径が25cm以上で、芯葉が

(2)方法

○側枝を30～40cm間隔に配置して樹冠全体の受光を良くし、結実性が優れる短果枝を多く着けましよう。そのため、発育枝を利用して、短果枝群を多く作りましよう。

○側枝は3～4年で更新しましよう。(図3)

〔摘果〕

○結果の多い部分や下枝、ふところ枝は、短果枝当たり3果以内に摘果しましよう。

○青ウメは、果梗部から果頂部に向かって果面の半分程度まで毛じが脱落し光沢を発する頃、漬けウメは、果実が黄ばみ始める頃が収穫の目安となります。

○出来るだけ果実温度の低い早朝に収穫し、収穫した果実は涼しい場所で選別しましよう。

〔土壌管理〕

○10～11月に堆肥を10a当たり2～3t部分深耕や表面施用しましよう。

○表層は敷わらや部分草生を行って、土壌の乾燥防止、流亡防止を図りましよう。

○草刈は早めに行い、また夏季高温乾燥期は灌水をしましよう。

〔施肥〕

施肥量と施用時期

○施肥量は、年間に有機園芸654で2年目まで1樹当たり700g程度としましよう。その後徐々に増やし、成木で1樹当たり有機園芸654で3kg程度を施用しましよう。

○基肥は11月上旬から12月上旬に年間施用量の60%を施用しましよう。追肥は4月上旬～5月上旬に年間施用量の20%、また樹勢が弱い場合は礼肥として収穫後の7月中下旬に20%を施用しましよう。(営農部 井内 祥晃)

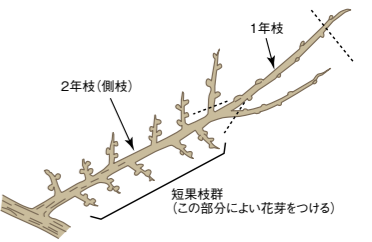


図3 側枝のせん定法(点線で切る)

園芸

レタス(チンシャ)の仲間

レタスとチンシャは同じ種類の野菜であり、地中海沿岸、西アジアが原産といわれていますが、ヨーロッパで発達したレタスグループと中国などで発達し、日本でも古来から栽培されているチンシャと呼ばれてきたグループがあります。

これらを結球型で分類すると、日本では主として流通されている玉レタス及びサラダ菜(日本では結球前の若株を利用)の結球レタス、タケノコ型でコスレタスとも呼ばれている半結球レタス、結球はせずに葉数が多く、葉に切れ込みやしわがある非結球レタス(リーフレタスと呼ばれグリーン系と赤系があります。また、下葉を掻きながら利用するカキチンシャ、茎を食べる茎チンシャと呼ばれるステムレタス)があります。

今回は、栽培が難しい玉レタスを除いた半結球及び非結球レタス(サラダ菜を含める)の栽培方法を紹介します。

1. 栽培のポイント

・酸性土壌を嫌うのでpHを7前後に矯正しましよう。また、連作地や排水不良地では病害や生育不良を招きやすいため避けてください。
・生育適温は15～20℃前後ですが、生育初期は高温や低温に耐えますが、10℃以下では葉数の分化を停止しましよう。発芽適温は15～20℃で25℃以上また4℃以下ではほとんど発芽しません。
・老化苗は、植え傷みをしやすく生育が遅れるので、本葉4～5枚くらいの若苗を植えましよう。

延びて株が盛り上がった状態の時、株の重さが200～250gを目安にしましよう。半結球のものについては品種の特性に合わせて収穫しましよう。

(営農部 橋本 忠幸)



※写真はタキイ種苗提供